



第 1288 回例会報告

平成24年10月4日(木) 晴

【10月は職業奉仕月間】

会長挨拶

会長 蒲地整志

松下幸之助 パートII

【報告事項】

1)本日お配りした「ロータリーの友」のちょうど中開きページに諏訪湖ロータリーの「セブの子供に音楽を!!プロジェクト」が大きく報道されています。大変うれしいことです。

①繁栄の基は奉仕にある

サービスを適切にやっていか いかないかによって、人々に満足いただけるかどうかが決まってくる。そして満足いただけるかどうか、支持していただけるかどうかにつながり、みずからの繁栄にも結びつくのである。

②道徳は実利に結びつく

社会の道徳意識が高まれば、お互いに迷惑をかけなくなる。人間関係や日常の活動がスムーズいき、仕事の能率もあがってより多くのものが生み出せるようになる。道徳は心を豊かにするだけでなく、実利実益にも結びつくのである。

③まず与えよう

人に何ら与えずして得ようというのはムシのいい話。頭のいい人は頭で、腕のいい人は腕で、優しい人は優しさで、そして学者は学問、商人は商売で、まずは自分の持っているものを与えよう。与えれば必ず与えられる。そう信じて事をなしたい。

松下幸之助の言動にはロータリーの職業奉仕の考え方に通じるものが多くあります。機会があったら、またご紹介致します。

先週の続きです。先週と続けてお読みください

◇幹事報告◇



■出席報告

会員数	35名
出席対象	35名
出席者数	27名
出席率	77.1%
前回修正	80.0%

■ニコニコBOX

25名	36,000円
累計	364,240円
目標額	130万円
達成率	28.0%

■今週のこぼ

9月27日84歳の誕生日を迎えることができました。これも諏訪湖RCあってのことと感謝しています。

岩村亀夫

西沢敏文様、わざわざお越しいただき感謝申し上げます。

御子柴文夫、西澤賢二

祝・ジャイアンツ優勝

蒲地整志

■次回のプログラム

10月18日

里山整備について

社会奉仕委員会

10月25日は

ガバナー補佐訪問例会です。全員出席をお願いします



2) Tech Talk、「財団室NEWS9月号」が届きました。回覧いたします。2点ともメールで添付されてきました。印刷して回覧しろということでしょうがペーパーレスのために発達したIT技術が、益々紙印刷を必要とさせているのは矛盾を感じます

3) RYLAのお礼が松本ロータリークラブより、クリーン下諏訪運動のお礼が商工会議所より届きました。

4) 麻薬覚せい剤防止センターより冊子が届きました。

【連絡事項】

1) 2011-2012地区年次報告が来ています。何回か訂正連絡が来ています。訂正が終わり次第回覧します。

2) 直前ガバナー都筑文男事務所が閉鎖になりました。以後の連絡は個人宛となります。

〒399-0701 長野県塩尻市広丘吉田2902-9
つづく歯科医院 TEL0263-86-3388 Fax: -86-6460
tsuzuku@wave.plala.or.jp info@tsuzuku-dc.com

3.ロータリーのホームページ担当者のための講習会があります。

【受領文書】

諏訪RCウイークリー

第 1288 回例会

職業奉仕顕彰例会・西沢敏文氏顕彰

担当 職業奉仕委員会

下諏訪町社東町在住西沢敏文様に職業奉仕顕彰状と支援金を贈呈し卓話をいただきました。

西沢翁(79歳)は左官業時に出会ったペリー缶を利用してのゴミ取り(チリ取り)製作を「もったいない」の気持ちで続けた人生を語って下さいました。

長野県の諏訪一円・伊那路は飯田まで・木曾路・佐久から川上村・軽井沢から上田坂城町・安曇野から小谷村まで配布を続けられて来ました。

残るは遠方のみのご様子です。パトカー先導で配布した逸話もあり、配布先からの写真礼状を受け更に製作意欲が湧いたことなど楽しく語って頂きました。

当会会員企業である西澤工業から廃棄缶提供もあり、楽しく続けられて来たご様子でした。今後益々のご健勝をお祈りします。



顕彰状贈呈の様子は各新聞社より報道されました

職業奉仕月間によせて

「社会奉仕と職業奉仕」

職業奉仕委員長 御子柴文夫

助詞を付けてみますと「社会に奉仕する」は誰でもわかります。「職業に奉仕する」は意味がわかり

顕彰状

西沢敏文 殿

貴殿は本業を引退後人生にて身に付けた技能を活用し、塵芥をくれるペリー缶を再利用してチリ取りを製作し地域の学校を始め各種の団体に寄贈しておられます。その数は千個を越え物の活用の大切さと環境浄化意識の高揚に多大な貢献をなされておられます。

貴殿のこれまでのご尽力に敬意を表し、今後のご活躍の一助になることを願い、ここに金一封を贈呈し顕彰申し上げます。

平成二十四年十月四日

諏訪湖ロータリークラブ 会長 蒲地 慧 氏

ません。しかしロータリークラブでは盛んに言いません。

これをロータリークラブ団体の目的と入会の目的の観点で見直して見ました。

●社会奉仕は目的と対象がはっきりしており団体は数多くあります。社会奉仕を目的として団体を選ぶならロータリークラブでなくても対象の目的に合った団体の方があります。

●職業奉仕はロータリークラブだけが掲げた言葉で「職業に奉仕する」と言い換えると

意味がわかりません。

職業を奉る。職業を尊いものとして更に高めて行くことを意味しているように捉え直すとおぼろげに考えがまとまります。

すなわち 職業・事業を行っていく上で守らなければならないこと「倫理観」を高めるためにロータリークラブは存在し会員は入会していると言えます。倫理観・人生観は人により価値の尺度が異なります。

ロータリー活動は、自分の倫理観を確認し修正し高めて行くために行っていると言えます。

4つのテストは それを端的に文章化した言葉だと考えます。

人により異なる倫理観があり、その倫理観を高めるためには 人の意見に耳を傾けて学べることは学ぶことだと思えます。

ロータリーの識者や重鎮が「例会が大事・例会の出席が大事」と良く言われます。

ようやく「例会の出席が大事」の意味は「人の振り見て我が振り直せ」のことわざと捉え始めました。

他クラブへの出席を推奨しているのも「人から学ぶ機会を失うな」の意味と思えます。

本日の例会にて西沢敏文様を顕彰させて頂いたのも 現在の社会奉仕されているお姿に学ぶものがあるからです。

ロータリー用語に「もっとも奉仕するものもっとも報われる」があります。一面的な見方かもしれませんが 社会に奉仕するものは社会的な評価としてむくわれて行くと思えます。

結論を言えば「自らの事業活動の倫理観を高め結果として社会に評価される」ための活動がロータリーの職業奉仕と捉えます。

時間調整を近江会員にお願いしたところ「職業奉仕委員長を引き受けたあなたが職業奉仕について語るのが筋だ」と断られました。さすがに会長経験者です。痛いところをついてくるし逃げ方も旨い。

おかげで つたない意見を述べさせて頂く機会を得たことに感謝申し上げます。

2012年10月4日例会時間調整のための卓話



9月20日国際奉仕担当例会

ロータリー米山記念奨学事業について(再録)

国際奉仕委員長 渡邊芳紀

財団法人 ロータリー米山記念奨学会と言います。目的は、勉学または研究のために来日し、わが国の正規の学校または研究機関に在籍する外国人留学生に対して奨学金を支給し、彼らの留学の目的を支援するとともに、ロータリーの理想とする、国際理解と親善に寄与することを目的とする。事業の内容は、①奨学金の支給②世話クラブとカウンセラーの制度③ロータリーアンと奨学生の交流④国内外での学友会活動があります。

ロータリー米山記念奨学事業とは、全国のロータリーアンからの寄付を財源として、日本で学ぶ外国人留学生に奨学金を支給し、支援する国際奨学事業です

「事業の使命」将来、日本と世界とを結ぶ懸け橋となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成することです。これは、ロータリーの目指す[平和と国際理解の推進]そのものです。

特長、奨学生一人ひとりに対して、地域のロータリークラブから「世話クラブ」が選ばれ、ロータリーとの交流の起点となります。さらに、世話クラブ会員の中から「カウンセラー」が付いて日常の相談役となり、奨学生が安心して留学生活をおくれるよう配慮しています。奨学生は例会や地域の奉仕活動、日本の実業人・専門職業人であるロータリーアンとの交流を通じて、真の日本を知り、ロータリーが求める平和の心を学んでいます。ロータリーアンにとっても、奨学事業の意義を実感し、視野を広める機会となっています。

それでは、すばらしい贈り物「ロータリー米山記念奨学会」製作のビデオをご覧ください。

詳細について。ロータリー米山記念奨学生の年間採用数は全国で2012年度800人(00年度まで約1100人・01年度から約1000人・05年度から約800人)と年々減少しています。2600地区では約20名です。奨学生の累計は1万6,389人(2011.7現在)

寄付額の一人平均は全国平均05年度以降14,500円前後です、2600地区も平均額(上から15番目)で推移していますが、会員数の減少により寄付額の減少は避けられません。奨学生800人に必要な事業費は14.3億円ですが、2010～11年度の寄付金は13.14億円でした、毎年「奨学資金特別積立財産」が減少しています。800人の奨学生を募集するにはロータリーアン一人年間2万円のご寄付が必要です。地区委員会から要請が来ています。

奨学金の種類。学部課程(YU)10万円/月・修士課程(YM)博士課程(YD)14万円/月が代表的なプログラムです。最長2年間・奨学生の採用は地区選考委員会が決定した指定校推薦制度(45歳未満・格課程の最終年度もしくはその前年度に在籍している人)の候補者を地区ロータリーアンが面接・選考します。尚、2010年度募集より、国籍による応募資格の制限を撤廃しました。

寄付金の種類と優遇。1.普通寄付金-日本のロータリーアンからクラブを通じて定期的に拠出する寄付金・各クラブで決定した金額x会員数を半期ごとに寄付する。諏訪湖RCの本年度の普通寄付金額は3千円x36人=108,000円です。1.特別寄付金-個

人・法人・クラブから、任意での寄付とロータリー関係者以外からのご寄付です。当RCの昨年度の特別寄付金額は31万円、一人平均9,118円でした。合計一人平均12,118円となりました。個人寄付の表彰は「3万円の準米山功労者」「10万円の米山功労者(感謝状青色)」「20万～50万円の米山功労者(感謝状銅色)」「60万～90万円の米山功労者マルチプル(感謝状銀色)」「100万～390万円の米山功労者メジャードナー(感謝状金色+ピンバッジ)」「400万円～の米山功労者メジャードナー(感謝状金色+100万円毎にクリスタル盾)」があります。法人寄付は「5万円の準米山功労法人」「50万円の米山功労法人(感謝状)」「100万円の米山特別功労法人(感謝状又は盾)」があります。クラブの表彰「100万円毎に(感謝状)」当クラブでは8回頂いております。「1千万円達成クラブ(感謝状額付)」「クラブ創立記念特別寄付(10万円以上の場合盾)」等があります。

税制上の優遇措置。個人が特別寄付をした場合は寄付額から2,000円を差し引いた金額が年間所得総額から控除されます。法人が特別寄付をした場合は、一般の寄付金算入限度額とは別枠で損金算入できます。

学友会活動について、米山学友(元米山記念奨学生)と現役奨学生によって組織される会です。現在、日本に30と海外に台湾(86人)・韓国(26人)・中国(12人)の3国(合計128人)にあります。学友会は、奨学期間終了後もロータリーとの絆を結び、学友同士の友情を深める役割を果たしています。学友会の登録は奨学期間終了時に世話クラブ所在地か居住地区の学友会へ(本人希望でいずれの学友会可)自動的に登録されます。ビデオ「心つないで、世界へ(ロータリー米山奨学会の学友たち)」があります。

ロータリー米山記念奨学事業「豆辞典」より